

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

<本年度の学力向上基本方針>

自ら学びに向かう児童の育成

4月

学力向上目標①

さいたま市学習状況調査において、①算数の平均正答率

②「授業がわかる」と回答する児童の割合 の向上を図る。

<目標達成に向けた学力向上策>

策1

全学年で一人ひとりの実態に応じた算数プリントを用意し活用する。
発問や学習形態を工夫し、わかる授業を提供する。

開始期日

6月

具体的な手立て

- ・単元の最初にプリントを活用した実態把握をもとに、児童に適した算数プリントを提供し、基礎・基本の定着を図る。
- ・S A、少人数指導者を効果的に活用する。個に応じた支援の仕方の工夫・改善を行う。

2月

本年度の振り返り

- ・児童の実態に応じた算数プリントを提供したり、自分から学びたいプリントを取りに行くようにしたりしたことで、基礎・基本の定着につながった。
- ・S A、少人数指導者を各学年の授業に配置したことで、個に応じた支援ができるようになり、基礎学力の向上につながった。
- ・研修を通して授業の改善を行った。思考する時間の確保をしたり、問題解決に向かうための多様な手段の提示を行ったりすることで、児童が主体的に課題に取り組むようになった。また、問題を繰り返し説くことで学習内容の定着を図った。

達成度

%

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント

- ・算数プリントに意欲的に取り組む等、自ら学びに向かう児童が増えたことで、さいたま市学習状況調査において、同学年集団のスコアが前年度より向上した。次年度はその意欲を他教科に広げられるように、手立てを設定する。
- ・S Aや少人数指導を活用し、全学年が算数の授業において、T Tまたは少人数で授業を行うことができた。それにより、個別に支援が必要な児童に寄り添うことができ、分からないことをそのままにしないで解決をしようとする児童が増えた。次年度もS Aや少人数指導を活用し、継続して個別に支援が必要な児童に寄り添えるようにする。